



地域学校協働活動と キャリア教育の広報紙

てなむ

学校向け

- ◆ こばやしスクールサポートボランティアセンター
- ◆ 小林市キャリア教育支援センター

【小林市社会教育課】Tel.22-7912
【小林商工会議所】Tel.23-4121



新年度を迎え、新たなステージが始まりました。こばやしスクールサポートボランティアセンター(KSSVC)と小林市キャリア教育支援センターの広報紙「てなむ」(西諸弁で「一緒に」)をお届けします。

市内の小中学校では、学校と地域・事業所・各種団体などが一緒になって子どもたちの学びや成長を支える取組を行っています。それらは、参加した大人にとっての「学び」や「生きがい」にもなり、ひいては地域の活性化に繋がるものです。「先生方からアイデアがたくさん出て、行事の見直しが進み、新たな活動も生まれました」と、ある教頭先生から聞きました。コロナが小康状態になったこともあり、各学校ともに活動実績が伸び、ボランティアの人数も増えています。

今年度も、さまざまな活動取材させていただきます。写真は「地域の困りごと助け隊」(須木中)による清掃活動

令和5年度、市内の小中学校で活動したボランティアと外部指導者は、延べ26,319名。内訳は、学習支援活動4,427名、部活動指導1,047名、環境整備1,852名、登下校安全指導17,900名、学校行事1,093名でした。(R5年4月～R6年3月)

～昨年度の活動より～ (旧学年)

西小林中 立志のつどい・記念講演



2年生



選んだ漢字を手に、20名が「立志の誓い」を述べました。その後は、発表を聞いていた1年生とグループを作り、「社会人に求められる能力」をテーマにフリートーク。「信頼」や「継続」、「コミュニケーション能力」など、活発に意見を述べ合う姿を、保護者が近くで見守っていました。

講演は大角恭代さん(野尻町)。東京でのユニクロ勤務(店長など)を経てUターン。野菜ソムリエプロとして、食育や商品開発など、様々な活動をしています。「『好き』を大切に～自分らしさ・個性を大切に生きよう」の演題で、東京での生活と、今の仕事を選んだ理由に触れながら、個性を大切にしたい生き方について、生徒たちにアドバイスをしてくださいました。

永久津小と永久津保育園の交流活動



入学を控えた4人の園児が小学校を訪問。1年生7人と交流を深めました。互いに名前と好きなものを言って、お楽しみ会が始まりました。最初は学校紹介クイズ。「たしごんをな

らうのはさんすう、こくごのどっち？」など、1年生が交代で出す問題に、園児たちは元気よく手を挙げていました。その後はペアになったのミニ探検。1年生が説明しながら、児童玄関や保健室を見て回り、最後はじゃんけんゲームで盛り上がりしました。

【園児の感想】すごいいっぱいくつて くれていて、たのしかったです。

【1年生の感想】ばらぐみさんといっしょに、またたのしくあそびたいです。

紙屋小 地域に花を植える活動

5年生



学校から紙屋大橋を渡り、坂の上の花壇までゴミ拾いをしながら移動。紙屋一徳まちづくり協議会の皆さんと、金魚草とノースポール、ナデシコの苗を植えました。毎年続けている活動で、

住民の皆さんにも喜ばれています。7月には中学生が植栽を行う予定です。活動の終わりに、協議会の木下会長から、美化活動へのお礼と、「ゴミ拾いをしないでいいような地域にしていきたい」との呼びかけがありました。



裏に続きます。

東方中 地域の高齢者に花を贈る活動



以前は、地域の一人暮らしの高齢者宅を訪問し、直接お渡ししていましたが、コロナ禍の影響で、ここ数年は、区長さんや民生委員の皆さんなど、地域のボランティアの方々にお願いしています。高齢者の皆さんを元気にしたいという思いを込めて、80数軒のお宅に、手紙を添えてパンジーを届けました。

【原田校長先生】生徒たちの活動が、地域と学校の橋渡しになればと考えています。【生徒代表】心を込めて育てました。よろしくお願いします。

【地域ボランティア】皆さんの優しさを必ず伝えます。

(生徒の手紙より) 私たち東方中生は花いっぱい活動で花を育てています。高齢者の皆さんに、ぜひ花を楽しんでもらいたいと思います。

春ですが朝から寒いですね。体調は大丈夫でしょうか。ちなみに、この花の花言葉は「もの思い」や「誠実」です。これからも、お元気に過ごしてください。

三松小 6年生へのおはなし会



【プログラム】 ◆ 読み聞かせ「たいせつなこと」

- ◆ ペープサート「しりとりが大好きな王様」
- ◆ 劇「現代版 三枚のお札」 ◆ 教科書クイズ
- ◆ 偉人クイズ ◆ プレゼント

保護者の読み聞かせサークル「わたぐも絵本の会」による「卒業おめでとう！小学校最後のおはなし会」です。いろいろなプログラムを10数名の保護者が交替で演じ、やまばや校長先生が登場する「三枚のお札」では大きな笑いが起き、クイズでは、たくさんの手が挙がって盛り上がりしました。

「わたぐも絵本の会」は、朝の読み聞かせに加え、全校児童が対象のクリスマスおはなし会と6年生へのおはなし会を毎年行っています。

【感想とお礼の言葉より】 ◆ 楽しいお話をありがとうございました。これからも絵本などをたくさん読みたいと思います。 ◆ おもしろい絵本や劇をありがとうございました。 ◆ 私はしりとりが大好きな王様と三枚のお札の話が好きでした。プレゼントもありがとうございました。 ◆ 6年間、本だけでなくクイズなど、いろいろな工夫もあって楽しかったです。

こんにちは！ 小林市キャリア教育支援センターです



キャリア教育トークセッション 第13弾



大工原忠相さん：NEC勤務。2022年から1年間、「大人の地域みらい留学」で西諸に滞在。飯野高校で地域の課題解決のプログラムに携わりました。西諸の温泉が大好きな東京人です。

「VUCA(ブーカ)」と「シンギュラリティ」の話題から始まりました。VUCAは、将来の予測が困難なため、既存の価値観やビジネスモデルだけでは対応できないこと。シンギュラリティ(技術的特異点)は、技術進化が進んだ先に待っている、これまでの社会とは常識が一変する転換点。2045年頃と予想されています。

最初に、量子通信技術やスマートシティ技術など、今後10年から20年の間に出現する未来技術約20件についての説明があり、続けて、シンギュラリティの時代に向けて我々大人が捨てるべき矜持(きょうじ：誇り・プライド)は？というテーマでお話をしてくださいました。

グループトークでは「シンギュラリティの時代に向けた人材教育」と「そんな時代の個人や地域の課題」について考えました。具体的にどんな時代になるのかを想像するのは難しく、意見をまとめるににくいテーマでしたが、未来社会に対する参加者の意識は高まったと思います。

まとめで、大工原さんは、人材育成について、ご自身が考える3つのポイントを示されました。

- ◇ 保護者は自己の再生産をやめる。(自分の経験だけで子どもを育てることをやめる)
- ◇ 学校は地域の教育機関としての役割、教育者としての誇りを確認する。(時代が変わっても学校がなくなることはない)
- ◇ 自分の地域の未来を、大人が真剣に考える。

最後に、「未来社会に向けて大人が矜持を捨て、何かを一つずつ変えていく姿や、新しいことにチャレンジする姿を子どもたちに見せることが大切ではないでしょうか」と、締めくくりました。

★ 地域学校協働活動とキャリア教育に関するご相談は2つのセンターまで。お待ちしております。